

## さらに多くを求めて



安息日午後 9月4日

## 暗唱聖句

これらの出来事は、わたしたちに対する警告であって、彼らが悪をむさぼったように、わたしたちも悪をむさぼることのないためなのである。(1コリント 10：6、口語訳)

これらの出来事は、わたしたちを戒める前例として起こったのです。彼らが悪をむさぼったように、わたしたちが悪をむさぼることのないために。(1コリント 10：6、新共同訳)

## 今週の聖句

1コリント 10：1～11、レビ記 4：32～35、ヨハネ 1：29、ヘブライ 4：1～11、詩編 95：8～11

## 今週のテーマ

アメリカ合衆国ニューヨーク市にあるクイーンズ美術館は、ニューヨークのすべての建物の模型（ジオラマ）を展示していますが、これは建築模型としては世界最大規模です。この模型の縮尺は1：1200（2.5センチが33メートルに相当）で、870平方メートルをカバーしています。この模型の原型は100人の職人が3年の歳月をかけて1964年に完成しました。そして、1990年代まで更新されてきましたが、2021年現在の姿は反映されていません。その実物を模した造形の複雑さと精密さには目を見張るばかりです。

しかし、いかにすばらしいとはいえ、結局のところ、それはより壮大でより大きく、より奥深く、はるかに複雑な物のコピーであり、模型にすぎないのです。

模型とはそういうものです。模型は実物ではありませんが、実物を象徴するものとしては機能します。模型は実物の本質をつかむには役立ちますが、決して実物の代わりにはなりません。それはむしろ、人が実物を理解しやすいように作られるのです。

聖書の中にも多くの、より大きな天の本体を指し示すための行為や制度があります。ヘブライ4章は、休みについての聖書の問いに関連して、そのような実物を発見する助けとなるでしょう。

問1 1コリント10:1~11を読んでください。パウロはコリントに住む彼の  
手紙の読者たちに、「前例」としてどんな事柄について言及していますか。

1コリント10:6(同様の語形は11節にも見られる)で用いられている「テュポス(typos)」というギリシア語は、ほとんどの英語への翻訳では、「前例(example)」と訳されています。英語の「型(type)」は、このギリシア語名詞を語根としています。型(または例)は決して実物ではありませんが、ある種、実物を象徴、または代表します。それは、ある物のひな型であるとも言えます。

ヘブライ8:5は、この関係性を示す良い例と言えます。「この祭司たちは、天にあるものの写しであり影であるものに仕えており、そのことは、モーセが幕屋を建てようとしたときに、お告げを受けたとおりです。神は、『見よ、山で示された型どおりに、すべてのものを作れ』と言われたのです」

このヘブライ人への手紙の箇所は、天にあるものと地上にあるものの直接的つながりを強調してから、出エジプト記25:9を引用しています。神がモーセに、「山で示された型どおりに」(出25:9)荒れ野での幕屋を作るように命じられたという聖句です。ここで重要な点は、地上の聖所としての幕屋で行われるすべての儀式や犠牲の手順は、天の聖所で私たちの大祭司としてイエスが行われることの「前例」であり、象徴、ひな型であるということです。

このことを頭に入れておくと、1コリント10章でパウロが述べていることがよく理解できます。これらの聖句の中でパウロは、荒れ野で約束の地へ向かう途上にあった神の民が経験したいくつかの重要なことを振り返っています。「わたしたちの先祖」は、エジプトを脱出したユダヤ人の先祖たちを意味します。彼らはみな、雲の下に守られ、海を通り、奴隷から自由になった新しい人生という洗礼を受けたのです。

パウロは、これらの荒れ野の旅の重要な節目の一つひとつが、個人的な洗礼の型、例であると考えたのです。このパウロの論理をたどると、「霊的な食物」はマナを意味しているに違いありません(出16:31~35と比較)。イスラエルは岩からの水を飲みますが、パウロは、この岩がキリストであったと考えます(1コリ10:4)。イエスは「命のパン」(ヨハ6:48)に、そして「生きた水」(同4:10)にたとえられます。そして、これらの譬えのすべては、完全な意味を成すのです。このように、パウロは旧約聖書の歴史を、現代のクリスチャン1人ひとりに当てはめることができる霊的真理を示す前例として引用しているのです。

出エジプト記に描かれているイスラエル人の経験を思い描いてみてください。彼らは善悪両方の意味で、私たちが学ぶべきどのような「前例」を残していますか。

レビ記に見られる旧約時代の儀式や犠牲は、私たちが昨日学んだことについて、より多くの事例を提供しています。すなわち、旧約聖書の象徴は、新約聖書の真理を指し示しているのです。聖書の現代の読者たちは、しばしばこれらの儀式の部分飛ばして読みがちですが、儀式は、これを研究する者には大いなる価値となる重要な霊的真理を含んでいるのです。

**問2** レビ記4：32～35に記されている、通常のイスラエル人のための贖罪の献げ物についての規定を読んでください。私たちは贖罪の献げ物のための祭壇がある聖所も神殿も持っていませんが、この儀式から何を学ぶことができるでしょうか。ヨハネ1：29、1ペトロ1：18～21と結びつけて考えてみましょう。

儀式は、重要な価値と情報の優れた伝達手段です。儀式はそうした文脈の中で理解する必要があります。儀式は通常、その意図された効果を生むためには、特定の時間、場所、そして一連の行為を定めた規定に従う必要があります。事実、犠牲についての旧約聖書の命令を読むとき、受け入れられるべき犠牲について、いつ、どこで、どんな儀式にどのような手順が必要かを、神が非常に具体的かつ詳細に指示されたことがわかります。

言うまでもなく、多くの儀式の中心は、血を流したり、注ぎかけたりすることでした。それはきれいなものではありませんし、きれいであるはずもありません。なぜなら、宇宙で最も醜いもの、つまり罪を扱う行為だからです。

実際に血はどのような役目を果たし、なぜ祭壇の角に注がねばならなかったのでしょうか。聖所に関係するほとんどの儀式は、規範の形で登場しています(どのように行うかについての指示はあります)が、必ずしもすべてが説明されているわけではありません。それはおそらく、人々がすでに、その儀式の意味をすべて理解していたからだと思われます。つまり、イスラエルの民は血の意味を理解していたということです(レビ17：11)。

しかしながら、レビ記4：32～35に見られる例は、「祭司がこうして彼の犯した罪を贖う儀式を行うと、彼の罪は赦される」(35節)との重要な説明を含んでいます。このように、血は贖いのプロセス全体にとって鍵となる重要な存在であり、血のゆえに、その儀式を通して私たち罪人が聖なる神に正しいものと認められるのです。このように、私たちはこれらの犠牲制度の中に、一つの型、すなわち、私たちのためのキリストの死と奉仕の働きのひな型を見るのです。

罪を贖うために神の御子イエスの犠牲と自己犠牲が必要であった罪とは、実にどれほど悪いものであったかを考えてください。この事実は、私たちがなぜ、決して行いによらず、恵みのみに頼らねばならないかについて、何を教えてくださいますか。

今週、私たちは実例についてすでに学びましたが、この型や象徴という考えは、聖書の休みについても適用できます。

**問3** ヘブライ4:1~11を読んでください。「まだ続いている神の休みにあずかる約束」とは何のことでしょうか。イスラエルの出エジプトや荒れ野の放浪の経験は、神の休みに入るという考えに、さらにどのような洞察を加えてくれるでしょうか。

この箇所非常に重要なテーマは、忍耐と忠実です。ここでは第七日安息日について語っていますが、これらの聖句（そして、その前のヘブライ3:7~19参照）の本筋の主題は、神の民に対する、信仰によって耐え忍ぶようにとの招きです。それは、主とその福音に忠実であり続けるようにとの召しです。

これらの聖句は、読者が、「さもないと、同じ不従順の例に倣って墮落する者が出るかもしれません」（ヘブ4:11）との、過去の神の導きから真剣に学ぶよう勧めています。同時にこれは、私たちにとって機会であることに注意してください。イスラエルは福音を聞きました。しかし彼らにとって、聞いたみ言葉は役に立ちませんでした。信頼と服従によって信仰が強められる代わりに、彼らは反逆を選び（同3:7~15と比較）、そして彼らは、神が彼らに望まれた休みを経験することはなかったのです。

ヘブライ4:3は、信仰と休みの密接な関係を示しています。私たちは、休みを約束され、この休みをもたらすことのできるイエス・キリストを信じ、信頼するときのみ、主の休みに入ることができるのです。

**問4** ヘブライ4:2、3をもう一度読んでください。この人々の主たる問題は何でしたか。「彼らと同様に福音が告げ知らされている」者として、私たちはどのような教訓を学ぶことができるでしょうか。

初期のクリスチャン共同体は、神の先の啓示（私たちが現在「旧約聖書」と呼んでいるもの）を受け入れ、イエス・キリストを神の小羊として信じました。そして、信仰によってその犠牲を信じ、イエスの内に救いを経験し、彼にあって私たちに提供されている休みを経験することができたのです。

イエスの血によって救われることを理解し、行いによるのではなく恵みによって救われることを知ることは、イエスにある休みに入るのにどんな助けとなりますか。

**問5** ヘブライ4:4~7と詩編95:8~11を読んでください。この両者に共通する警告は何ですか。現代の私たちは、そこから何を学ぶべきでしょうか。

ヘブライ4:4~7は、天地創造の記述と、不信仰のためにイスラエルが神の約束された休みに入ることができなかったという文脈の中で、詩編95:11を引用しています。事実、詩編95:8~11は、イスラエルの荒れ野での経験を神の安息と結びつけ、不信仰な彼らが、約束の地と共に与えられるはずだった神の安息に入ることはないという神の誓いについて記しています。

もちろん、イスラエルは約束の地に入りました。新しい世代が国境を越え、神の助けによってこの国の岩を落とし、そこに定住します。

しかしながら彼らは、神の安息には入らなかったのです。それは多くの人々が、その目に余る不服従によって表された信仰の欠如のために、イエスにある救いの事実を経験しなかったということです。安息は約束の地と共に与えられるものでしたが、それは単に民が住む場所以上の意味を含むものでした。

**問6** ヘブライ4:6は、先に真の安息の約束を聞いていた人々が、不服従のために入れなかったと記しています。不服従と神の安息に入れなかったことの間には、どんな関連があるのでしょうか。

「今日」は、緊急性を表しています。「今日」はもはや無駄にする時間はないことを意味しています。「今日」は今決断し、応答することを求めています。

パウロは、あえて（ギリシア語の「セーメロン」に当たる）「今日」という語を用いて、休み（安息）の文脈の中でその重要性を強調しています。一方、詩編95:7、8は、先祖たちの過ちを再び繰り返さないように、そして神が提供してくださる救いの中のみ見いだされる真の安息に入るのに失敗しないようにとの、神の民に対する警告と訴えです。

「今日、あなたたちが神の声を聞けず、心をかたくなにはならない」とのみ言葉は、今の私たちに何を意味するのでしょうか。「今日」という言葉を用いるほど重要なものは何でしょうか。詩編記者が何千年も前に用いたこの「今日」が、数千年前にそれを聞いた人々と同じように、なお現代に生きる私たちにも重要な「今日」であるのはなぜでしょうか。

ヘブライ4章に流れている思想は、ヘブライ4:8~11を読むときに、その論理的展開が明らかになります。ヨシュアは、イスラエルに安息を与えませんでした。神は偽らないお方ですから、神の民のために残されている別の「安息」があるはずで、この「神の民」は、ユダヤ人クリスチャンだけではなく、イエスを個人的な救い主として受け入れたすべての人々を含みます。

**問7 ガラテヤ3:26~29を読んで、十字架後の神の民の特徴を書き出してください。パウロが、「ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません」と書いた意図は何でしょうか。**

時にヘブライ4章は、第七日安息日じゅうしちの遵守じゅんしゆを強調するために用いられることもあれば、別の（終末の）安息があるという事実じつじに光を当てて、安息日の妥当性を疑問視するために用いられることもあります。どちらの立場も、この聖句を正しく反映しているとは言えません。この聖句が言わんとすることは、終末に与えられる神の特別な安息が、天地創造以来ずっと提示されており、安息日の休みを祝うことが、終末の「最大の」安息を毎週少しずつ味わうために提供されているということです。事実、ユダヤ人にとって安息日は、「オラム・ハバ」おらむ ほんば（乗るべき世界）の小さな先取りとして理解されてきました。

神の民に残されている安息日は、神が地球の歴史で最初の安息日に休まれたことを思い起こさせるもので、私たちが自分の行いをやめて、主が私たちのために救いの約束を果たしてくださることを信頼するように教えています。

ある解釈者たちは、安息日の戒めは、キリストによってもたらされた救いの安息によってすでに成就したのだから、クリスチャンはこの戒めに従う必要はないと主張しますが、この文脈はそのような考えを支持しません。キリストが成し遂げられたことによって私たちに約束されている最終的な安息は、聖書的な第七日安息日にとって代わるものではないばかりか、逆に安息日を高めるものです。

独立独行、仕事第一主義、金儲けに手練れた者が高く評価されるこの世の中であって、イエスの内に休み、イエスの恵みは私たちを救い、変えるに十分であると信じることは、全くそのような文化に逆行するものと言えるでしょう。

あなたは、自分の罪は重すぎる、自分の心は変えられない、自分の抱える問題は全く希望がないと考えている人々がイエスの内に休みを見いだすのを、どのように助けることができますか。彼らと、聖書のどんなみ言葉を分かち合えるでしょうか。

「私たちは、試練や困難のときにも常に喜んでイエスのところに行くだろうか。私たちは人間に悩みを打ち明け、私たちを助けることのできない者たちに悲しい思いを語る。しかし、悲しみに満ちた大通りを、喜びと平安の小道に変えることがおできになるイエスにすべてを打ち明けることをしない。自己否定と自己犠牲は十字架に勝利と栄光を帰すのである。神の数々の約束はなんと貴いものだろうか。神のみ心を知りたいと望むなら、み言葉を学ばねばならない。靈感のみ言葉を注意深く学び、その通りに従うとき、み言葉は私たちの足をつまづくことのない平らな道へと導いてくれるのである。だからこそ、すべての伝道者たち、そして主の民は、彼らの重荷と途方に暮れるような困難をイエスにゆだねねばならないのである。主はそれらを受け取り、代わりに平安と休みを与えようと待っておられる。主は、主に信頼を置く者たちを決して見捨てることはないのである」(『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』1887年3月17日号、英文)。

「敬愛する若者のみなさん、あなたは正しい裁判官である主が、あなたの名を御父と聖なる天使の前で公に言い表される時を、喜びの希望と期待を持って待つことができますか。キリストの再臨のためにあなたができる最良の準備は、キリストが初臨の時にもたらされた大いなる救いをしっかりと信じることです。あなた個人を救われるお方として、あなたはキリストを信じなければなりません」(『今日の光——我らが高き召し』2001年第4期12月28日)。

### 話し合いのための質問

- ① 天来の安息を前もって示す第七日安息日は、神の民にとってどのような意味で特別なものでしょうか。
- ② 贖罪は和解を意味し、神に立ち帰る道を示します。ローマ5:11の次の重要な声明について考えてください。「それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです」。もしだれかに、「神と和解するとはどういうことですか。その和解はあなたの人生をどのように変えますか」と尋ねられたら、あなたはどのように答えますか。
- ③ 私たちはクリスチャン人生の中で、どうすれば重要でない些細なことに捕らわれるのを避けることができるでしょうか。神のみ言葉の中に示されている全体像に焦点を合わせるためには、何が必要でしょうか。
- ④ イスラエルの民が荒れ野で見せたすべての過ちと信仰の欠如について、もう一度考えてください。(私たちは広大な荒れ野を旅していないという点で) 彼らが経験した困難は、細かい点では私たちの経験とは異なりますが、そこに共通する原則はあるでしょうか。私たちはクリスチャン人生の中で、同じような困難に直面するかもしれませんが、彼らの失敗から、私たちは何を学ぶことができますでしょうか。

## 信仰を持って1歩踏み出す (テリ・サエリー)

イラクで、ある人がある父親にイエスのことを話しました。その父親はイエスを愛するようになり、セブンスデー・アドベンチスト教会に加わりました。しかし、彼の妻は伝統的な宗教に留まる決心をしました。しばらくして、家族はイラクで生活することが困難になりました。父親は、妻と2人の幼い娘の安全を心配して、アメリカで難民として生きていくことに決めました。

カリフォルニアで、その両親は娘たちを公立の学校に通わせましたが、父親は、娘たちがアドベンチストの学校で学べるように祈りました。彼にはお金もなく、学校について教えてくれるアドベンチストの知人もいませんでした。

ある日、父親はフード・バンクを訪ねました。食料を受け取るために待っている間、ボランティアの人と話をし、そのフード・バンクがアドベンチスト教会によって運営されていること、さらに、その教会が学校を持っているということがわかったのです。両親は生活費を節約し、学校への支払いをすることに決めました。

しばらく経ってから、父親は妻と2人の娘（9歳と11歳）と一緒に、教会学校へ行きました。彼らは顔を輝かせながら校長室の椅子に座り、次にすべきことを聞き逃すまいと、耳をそばだてていました。

そこにいた校長と教会の牧師は、互いに顔を見合わせました。その両親と娘たちの顔にあらわれた熱心さが、彼らの心に迫ってきたからです。しかし、両親が持ってきたお金は十分ではありませんでした。校長は、「2人のお子さんを当校に心からお迎えしたいと思っているのですが、入学金が足りません」と言いました。

そう言いながら、校長はもう一度、牧師の顔を見ました。彼女は、憐れみに満ちた牧師の目を見ると、勇気を得て言いました。「ですが、お子さんたちを入学させます。信仰を持って1歩踏み出しましょう」

4人の大人と2人の女の子は、ひざまずいて頭を垂れ、「神様、あなたの助けを必要としています。教育のためにお金を与えてください」と、牧師が祈りました。

家族が帰った後しばらくして、校長は電話を受けました。それは北アメリカ支部の難民移民の担当者からでした。難民の授業料を支払う助けとなるお金があると伝えてきたのです。それは、2011年第4期の13回献金からのものでした。

校長は最初、耳を疑いましたが、すぐにあの父親に電話をかけ、娘さんたちの授業料のためのお金が見つかりましたよ、と伝えました。

「神が私たちの祈りに応えてくださった!」と、父親は叫びました。